



聖隷訪問看護ステーション千本

宇佐美 恩 さん

看護師経験：29年（訪問看護師経験25年）

特定行為取得区分

- ろう孔管理関連、在宅・慢性期領域（2021年4月取得）
- 呼吸器（人工呼吸療法に係わるもの）関連
- 動脈血液ガス分析関連
- 血糖コントロールに係る薬剤投与関連
- 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連（2024年10月取得）



受講の動機・きっかけは…

病院で急性期等を学び、訪問看護で3年が過ぎ、在宅のマネジメントを学ぶため介護支援専門員を取得し、10年が過ぎた頃より、看護のキャリアアップを考えていました。

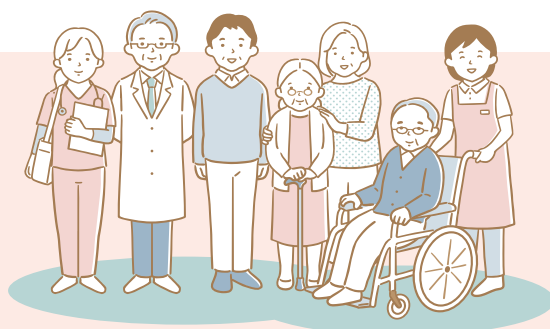
訪問看護の実践では、利用者・家族が褥瘡で困っていたり、胃ろうカテーテルが閉塞したり、気管カニューレが閉塞気味であったり、膀胱ろうカテーテルが抜けてしまったりという場面を何度もみてきました。医師は多忙のためタイムリーに診療できない場面がありました。そのような中、特定行為研修制度を知り、利用者・家族、地域の役に立てると思い、管理者に相談し在宅・慢性期パッケージがある研修施設に受講志望しました。そして、他区分の中にも在宅に役立てるものがあると思い、2024年に追加履修をしました。



やりがいは…

臨床推論を学び、アセスメント力が上がっています。履修前より病態が理解できるようになりました。医師の話すことも理解しやすくなったと思います。そして、利用者・家族に丁寧な説明し、安心・安全な看護を提供できることにつながっています。褥瘡や慢性創傷のケアでは、手順書をいただいて活動しますが、ケアの提供は特定看護師だけでなく、ステーション内の他訪問看護師も知識を持って、協働することにより創傷治癒のスピードがはやくなったと思います。ステーション全体でケアしています。そして、いろいろなデバイスの管理も協働して行っています。

また、膀胱ろう等の交換を特定看護師ができることで、救急のことが発生した場合、医師が不在の時でも特定看護師が実施できるためタイムリーに対応できます。そのことで、利用者さんの不安が軽減し、安心できると利用者・家族に言われると素直によかったと思います。





1日のスケジュール

訪問看護ステーションの管理者と特定看護師として活動
＜在宅での実際の特定行為＞

- ・気管カニューレの交換は2週間～4週間に1度程度
- ・胃ろうカテーテルバルン型ボタンの交換は2ヶ月～3ヶ月に1度程度
- ・膀胱ろうカテーテルの交換は4週間に1度程度。

活動場所は、自宅訪問、看護小規模多機能型居宅介護事業所、サービス付き高齢者住宅等です。以前は一人活動もありましたが、現在はもっと特定行為活動を身近なものにしていきたいので、訪問看護師と協働しています。



活動の様子



みなさんに伝えたいこと

これから訪問看護師のキャリア形成の中で、いつか特定看護師がレギュラーになる時代が来ると考えています。特に在宅ではますます需要が高まると思います。特定看護師の仲間が増えていき地域活動できるようにしたいです。在宅の特定看護師は重症なケアを在宅という特殊な空間で行うイメージがあるかもしれませんが、在宅チームで関わり医療安全に注意しています。訪問看護師の方も、これから在宅分野をめざす方にも、おすすめします。

組織ビジョン & 応援メッセージ



櫻井 悦子

在宅サービス事業部次長

して質の高い訪問看護ステーションを運営

平成8年から訪問看護ステーションを運営し在宅療養を支援してきた者として、専門性を高めたい、もっと深く学びたいと思っていました。しかし、管理者と

して行くには、スタッフの専門性を高めることこそ必要だと思うようになりました。気管切開、人工呼吸器、胃ろう、腸ろう、膀胱ろう、褥瘡など医療ニーズの高い方の訪問が多い訪問看護ステーションです。緩和ケア認定看護師がいて、次にと考えたのが特定看護師でした。宇佐美さんも自分が学びたいものではなく、当訪問看護ステーションに何が必要かと考え同じ結論を出しました。次の管理者の立場として考えたのだと

組織ビジョン & 応援メッセージ

思います。資格取得後は水を得た魚のように役割を果たしています。各スタッフに刺激を与えていることと特定看護師がいることで安心感につながっています。

地域の多くの先生方から手順書（2024年12月現在16手順書）をいただき活動しています。

今後は、宇佐美さんに続く特定を目指す看護師が必要です。時々入院、ほぼ在宅の地域包括ケアシステムを成熟させていくには特定看護師はなくてはならないものです。

そのためにも、訪問看護ステーションには複数名の特定看護師がいたらいいと思います。



す。専門的な看護師がいることで複雑な処置があっても在宅でも過ごしていける。それができる訪問看護ステーションにしたいと思います。

みんなの在宅診療所（訪問診療専門）三池 徹 医師

超高齢化社会を迎える日本において、特定行為研修を修了した看護師に対する期待は非常に大きいです。在宅医療においては、キーパーソンである看護師が患者さんの状態を迅速かつ正確に評価し、適切な対応を行うことが重要となります。特定行為研修を修了した看護師は、特定行為を自らの判断で実施できるため、緊急時の対応スピー

ドが飛躍的に高まります。これにより、患者さんの安全は確保され、家族も安心して在宅医療を受けることができます。またチーム医療の重要な一翼を担うことで、看護師自身のキャリアアップや自己成長にも寄与するため、医療全体のサービス向上につながることを期待されます。



聖隷訪問看護ステーション千本の皆さん